

地域応援プロジェクト

～同志社から、スポーツの力で恩返し～

1 目的・概要

本プロジェクトの目的は、同志社大学と京田辺市の連携によるスポーツの推進と地域の活性化を図ることです。同志社大学には、学部の専門性を活かした知識を持つ学生や広大なスポーツ施設、そこで活躍する体育会など、貴重な資源が豊富にあります。それらを活用した事業計画の提案と実践を行い、地域の発展と活性化への応援活動を進めてきました。目的達成のために私たちは「スポーツでエンを！！」というコンセプトを掲げて、1年間、計画的に活動しました。スポーツのできる“エン”とは多種多様です。例えば、地域の方々との「縁」ができる、アスリートを応援「援」する、スポーツをする機会を通して、人々が「円」となり、「en」joyするなど、たくさんの“エン”を創ることができます。また、様々な“エン”にアプローチすることで、地域の方々と交流を持ち、行政機関や教育機関との連携プレーも行い、地域で多くの学びと体験を得ることで、地域と共に我々も活性化します。これらが私たちの将来の糧となるように、積極的に活動しています。“エン”とは縁でもあり、円でもあります。プロジェクト活動を通して、私たちは、改めてスポーツの持つ力の素晴らしさを実感することができ、今後も同志社大学と地域との連携プレーが継続していけると確信しています。

Annual Schedule

2016年	4月	プロジェクト科目開始	コンセプト及び活動方針と企画についての話し合い
	5月	企画1) スポーツ大会の周知活動の開始	TOUR OF JAPAN について京田辺市役所「市民参画課」との話し合い
	6月	企画2) 出前教室の企画、準備のため市立園長・校長会での説明会を行う	30日 TOUR OF JAPAN の周知活動、および応援 春学期成果報告会の準備
	7月	出前教室：水泳（普賢寺幼稚園）を実施	24日 春学期成果報告会
	7月	出前教室：チアリーディング（普賢寺幼稚園・大住幼稚園）を保育者に指導	
	9月	出前教室：チアリーディング（普賢寺幼稚園・大住幼稚園）を園児に指導	
	10月	企画3) 同志社デイヴィスカップの準備	国際センターラウンジでの留学生への周知活動と打ち合わせ開始
		14日 出前教室：フィットネスの準備のため京都テルサ「コグニサイズ」勉強会に参加	
		19日 プロジェクト科目OBの山下さん・北野さんをゲストスピーカーとして招致	
		30日 出前教室：フィットネス（たなべ健康祭り）の実施	
	11月	同志社デイヴィスカップの開催準備と周知活動	
		27日 同志社デイヴィスカップの実施	
	12月	秋学期成果報告会の準備	
2017年	1月	22日 秋学期成果報告会	



2 成果達成度

【援、円】「TOUR OF JAPAN」の周知活動

開催日：2016年5月30日（月）
 開催場所：普賢寺小学校前～けいはんなプラザ周回コース
 周知場所：同志社大学京田辺キャンパス
 集客方法：授業内でのPR活動、SNSでの広報活動

TOUR OF JAPAN は日本版ツールドフランスとも称される国内最大規模の自転車レースです。今回は、京田辺市と精華町でレースが開催され、同志社大学の構内を試走するという機会に恵まれました。その周知活動のために学内でチラシを配布したり、Twitterでアカウントを作って情報を発信したりして、PR活動を行いました。また、同志社大学の構内を世界レベルの選手が走る姿を市民の方々が身近で見ることができるよう、京田辺市で全国規模のレースが開かれることを多くの人々に知ってもらうための活動をしました。本プロジェクトを通して、地域密着の応援活動を行い、大勢の人が集い、大会が盛り上がるように尽力しました。京田辺市と連携をする“縁（円）”を作った第一歩でした。

【enable、enjoy、縁（円）】「出前教室」

開催日：2016年7月、9月、10月
 本プロジェクトには、スポーツ健康科学部の学生やスポーツ経験者が多く、専門分野と競技技術に優れているという利点があります。その知識や技術を活かすべく、スポーツの「出前教室」として地域の現場に出向き、【チアリーディング教室（大住幼稚園・普賢寺幼稚園）、水泳教室（普賢寺幼稚園）、フィットネス教室（田辺記念病院）】を行うことで地域との“エン”を生み出しました。開催までに、各機関の指導者や責任者の方々と綿密に打ち合わせを行い、交流を深めることで貴重な体験をさせていただきました。チアリーディング教室と水泳教室では、幼稚園児たちが少しでもその競技ができるように（enable）、そして楽しめるように（enjoy）指導を行いました。さらに、運動会で発表する機会にも恵まれ、保護者の方々にも大変喜んでいただきました。スポーツの特徴を知るという意味でも良い機会になったと思います。フィットネス教室では、市民の方々が多く集う「たなべ健康まつり」の会場で、様々な年代の方に、認知症予防に効果的な「コグニサイズ」という体と頭の両方を使った運動を楽しく（enjoy）体験してもらい、今後も継続して運動を実施いただけるようなプログラムを提供しました。



【円、縁、enjoy】「同志社デイヴィスカップ」

開催日：2016年11月27日（日）
 場所：同志社大学京田辺キャンパス デイヴィス記念館
 参加者：84人（一般市民64人+同志社の学生20人）
 私たちのプロジェクトの集大成が、スポーツイベント「同志社デイヴィスカップ」です。当日までに私たちはたくさんの方々と円を作ってきました。今までプロジェクトと関わってきた方々に呼びかけ、私たちと活動対象者だけだった円を、地域と大学が交流を深められるような大きな円にしようという考えのもと開催しました。当日はあいにくの雨だったため、屋外施設を紹介することはできませんでしたが、デイヴィス記念館（体育館）内でスポーツ大会を開催しました。留学生も参加しており、またここにも「縁」ができたと思います。



3 プロジェクトを通じて

1年間を通して主に2つのことを学びました。1つ目は、イベントを1から作りあげることの難しさです。私たちは様々な活動を行ってきましたが、集大成である同志社デイヴィスカップで特にそのことを実感しました。イベント内容の計画、当日のリスクマネジメント、周知・集客活動など、イベントを開催するにあたり、私たちが想定していた以上に多くの困難がありました。その中でイベントに対するメンバー間の温度差を感じ、私たちは“当事者意識”の大切さに気付きました。この経験を通して、今後どのコミュニティに所属したとしても、“当事者意識”を持って物事に取り組んでいこうという気持ちが強くなりました。

2つ目は、スポーツが持つ力です。この1年間で私たちが体感したスポーツの力は、人を応援する力、人を楽しませる力、人と人を繋ぐ力などです。特に人と人を繋ぐ、“エン”を築く力には私たち自身が驚かされました。同志社デイヴィスカップでは、これまでのイベントでスポーツを通して培った“エン”のある地域の方々に参加して頂きました。このように、スポーツにはまだまだ気付いていない力がたくさんあると思います。そしてこのプロジェクトが、スポーツが持つ力を知るきっかけになったことを幸せに感じるとともに、まだスポーツが持つ力を知らない人たちに、もっともっと知ってもらいたいとも強く感じました。

今後も、ずっと長い将来、同志社の学生がスポーツを通じて次世代の子供たちや、日本の将来に明るい希望をもたらしてくれるような力を発信してくれるよう期待をして、結びとさせていただきます。

最後に、科目代表者の宿久洋先生、科目担当の高橋仁美先生、TAの辻和真さん、1年間ありがとうございました。この“エン”に感謝いたします。



編集後記

私はこのプロジェクトを通して、「有言実行」することの難しさを体感しました。案を出してから、明確な目的を添えた企画書の作成、そして当日の実行まで気を抜くことができませんでした。しかしその壁を乗り越えたことが私たちメンバー全員の確かな財産となったことを今確信しています。スポーツの力を改めて心に留めることができた素晴らしいプロジェクトでした。

プロジェクトメンバー

古澤 奈津実(文化情報2) 萩原 透(生命2) 樋本 英悟(スポーツ2) 中村 俊介(スポーツ2)
只松 憲(スポーツ2) 藤井 朋香(スポーツ3) 鹿島 詩子(スポーツ3) 北村 穂乃(スポーツ3)
二反田 菜央(スポーツ3) 下村 恵未(スポーツ3) 武田 侑也(スポーツ3) 輪田 森郎(スポーツ3)
本田 拓己(スポーツ4) 能澤 直也(心理2) 辻 和真(TA)

